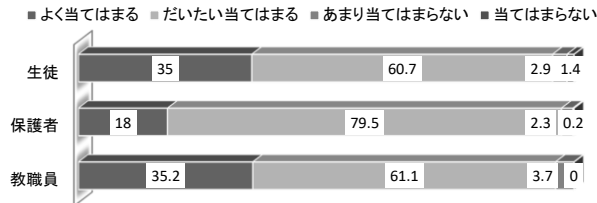


令和7年度 学校評価アンケート結果及び分析と対策について

宮城県富谷高等学校 校長 宗 秀行

実施時期 令和7年10月24日(金)～11月17日(月)
 回答状況 生徒 回答数 732名 回答率 95.3%
 保護者 回答数 562名 回答率 74.1%
 教職員 回答数 54名 回答率 96.4%
 回答方法 「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の4段階で評価。

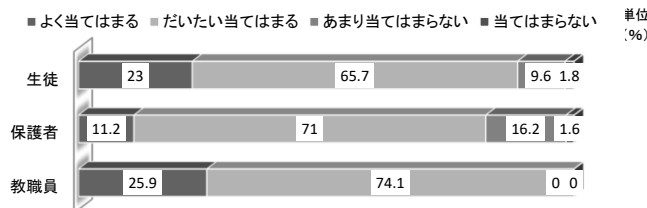
1 学校として、スクールポリシーに基づいた教育課程が編成・実施されている。(教育課程)



【分析と対策】

生徒・保護者・教職員すべてにおいて9割以上の方から「よく～」「だいたい～」という評価をいただいております。スクールポリシーに基づいた教育課程が編成・実施できているものと考えます。今後は本校のスクールポリシーをさらに浸透させるとともに、社会の変化に対応し、生徒をより望ましい姿へと成長させ得る教育課程の編成に取り組むべく、継続的に情報収集に励みたいと考えます。

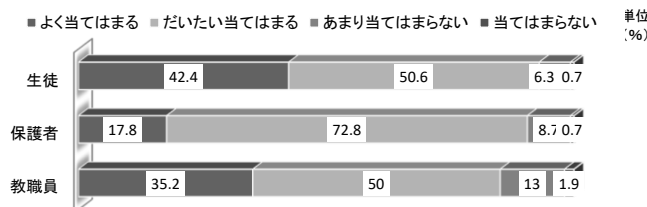
2 生徒にとって、学が意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている。(学習指導)



【分析と対策】

生徒・保護者・教職員すべてにおいて8割以上の方から「よく～」「だいたい～」という評価をいただくことができました。教職員に比べると、生徒や保護者の評価は低くなっているものの、昨年に比べると生徒・保護者の肯定的な評価の割合はわずかながらも上昇傾向にあります。「主体的・対話的な深い学び」を実現し、生徒の自己実現につながる学力を身に付けられるよう、ICTを十分に活用した授業実践を次年度以降さらに積み重ね、教員の授業力向上を進めていきたいと考えます。

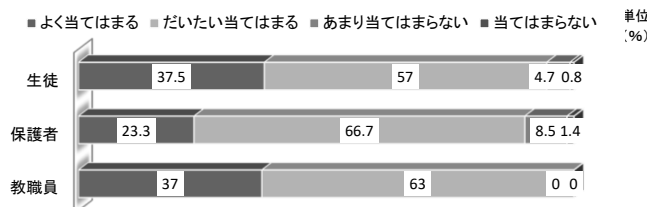
3 生徒にとって、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。(生徒指導)



【分析と対策】

生徒・保護者・教職員による「よく～」「だいたい～」の評価の合計は、昨年度の数値と比較してそれぞれ低下しており、特に教職員からは1割を超える低下でした。今年度からの自転車通学者におけるヘルメットの着用における指導に時間を要しています。挨拶指導や基本的なマナーに関する指導については、教職員からの声かけがあれば実行できる生徒が大半を占めていますが、生徒自身から自発的に行動を起こす力が今後の課題であると考えています。引き続き、生徒会を中心とした挨拶運動などの取り組みを通じて、生徒たちの課題解決に向けた支援を行っていきたく考えています。

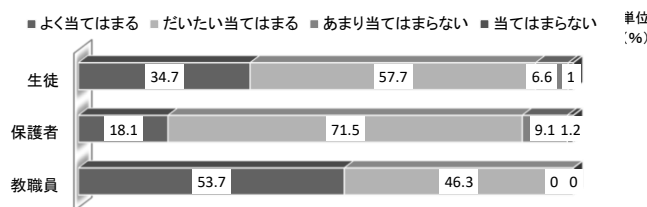
4 生徒にとって、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。(進路指導)



【分析と対策】

生徒・保護者・教職員のいずれにおいても、「よく～」「だいたい～」と評価する割合が昨年度より上昇しました。今年度は、各学年のPTA研修会や定期的な進路通信の発行を通じて、保護者の皆様にも生徒とともに進路理解を深めていただく機会の確保に努めてきました。また、生徒を対象に実施した進路行事や進路学習のアンケート結果からも、各学年の生徒が非常に意欲的に進路諸活動に取り組んでいる様子が確認できました。入試を取り巻く環境の変化が著しい昨今、最新情報をわかりやすく伝えるとともに、生徒・保護者双方にとって進路相談がしやすい環境づくりに、今後も引き続き努めていきます。

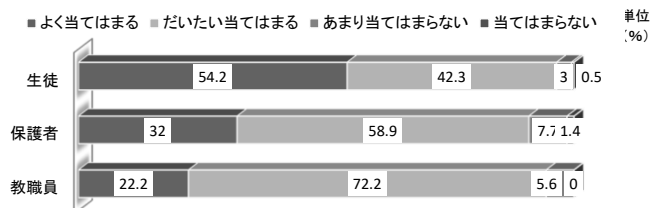
5 生徒にとって、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている(教育相談)



【分析と対策】

教育相談が必要とされる場合、できる限り迅速かつ懇切な相談ができるように教員、スクールカウンセラーともに努めています。生徒が相談を求める場合は喫緊の事態のことや、なんとなく不安な時などそれぞれですが、いずれの場合においても常に相談に応じる体制が取られていることがアンケートからも読み取ることができ、本校の相談事業の体制が生徒・保護者に浸透しているものと考えています。今後とも関係各所との連携を深め、実のある教育相談が継続できるように引き続き努めていきたいと考えます。

6 学校として、部活動は活発に行われている。(部活動)

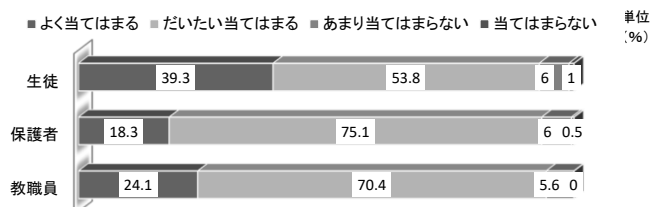


【分析と対策】

生徒・保護者・教職員とも「よく～」「だいたい～」との回答が90%を超えており、高評価を得ています。今年度より任意の加入となりましたが、多くの生徒が加入し、運動部・文化部に限らず良い結果を残すことができていることは喜ばしいことと考えます。

今後はクラス減に伴い生徒数や部活動も減少していきますが、結果だけでなく、同じ目標を持ち、他の学年との関わりも含めて、学校の活性化に向けて取り組んでいきたいと思います。

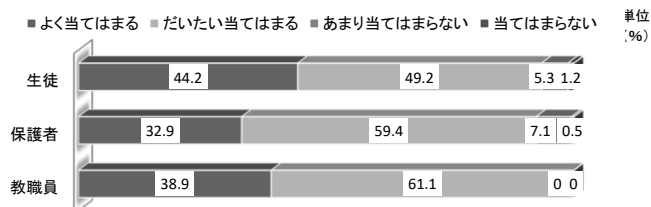
7 学校として、生徒会活動は活発に行われている。(生徒会活動)



【分析と対策】

生徒・保護者・教職員と「よく～」「だいたい～」との回答が例年同様90%を超えており、高い評価を得ています。多くの生徒が生徒会執行部に所属し、春の体育大会では生徒会執行部を中心に運営されていました。また、秋口の樹咲祭や球技大会においても各委員会や部活動の生徒たちがお互いに協力をしあい、運営に当たるなど準備・計画から生徒たちの頑張りが見られています。今後も多くの生徒が活躍できる場面や機会が増えていくよう、支援や指導をしていきたいと考えます。

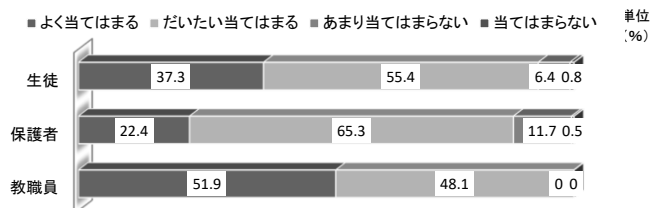
8 自分にとって、有意義な学校行事がある。(学校行事)



【分析と対策】

生徒・保護者とも「よく～」「だいたい～」と評価する割合が昨年度と比較して増加しました。文化祭や体育大会といった文化的、健康安全・体育的行事といったものに留まらず、探究学習発表会や講演会等も含めての評価だと考えられます。次年度以降も、生徒の実態や教育環境の変化への対応、地域との連携等を踏まえ、内容の改善・充実に向けて検討を継続していきます。

9 学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。(特色ある学校づくり)



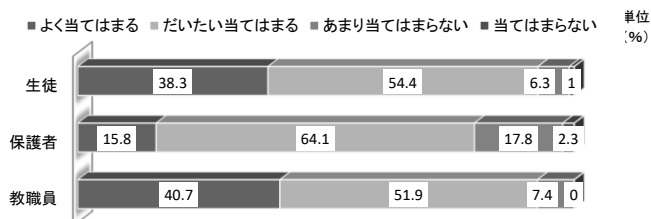
【分析と対策】

「よく～」「だいたい～」の合計が約9割となり、肯定的な評価を得ました。特に、昨年度と比較して、生徒・教職員双方の評価が向上しました。

本校では、総合的な探究の時間(T-time)において富谷市と連携し、地域課題をテーマにした課題研究に取り組んでいます。この活動は本校の特色の一つとして認識されており、課題研究を契機に地域活動への関心を高め、参加する生徒が増加しています。生徒は社会の形成者としての意識を高め、学校内外で活躍の場を広げています。

今後も「地域と共にある学校づくり」を一層推進します。

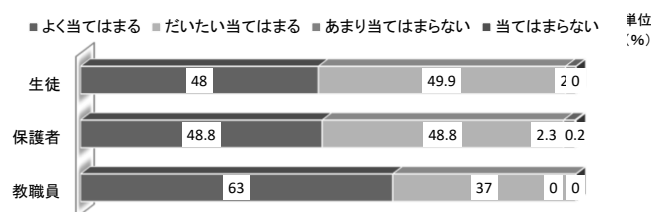
10 生徒に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている。(防災教育)



【分析と対策】

保護者向けにeメッセージ等を活用し、訓練前に災害・非常時の対応について家庭で都度確認することで、一昨年度数値が大きく改善した項目です。生徒安否確認メールの返信率向上のための指導充実等の取り組みを実施した結果、今年度の生徒返信率は90%となり、実際の行動に結びついていると考えます。また、「よく～」「だいたい～」について、昨年度比生徒は4.2ポイントの増加(保護者は昨年と同じ)であり、さらに認知が進んでいると考えます。加えて、不審者侵入等の不測の事態への対応を教職員・生徒で都度確認し、万が一の状況に備えています。

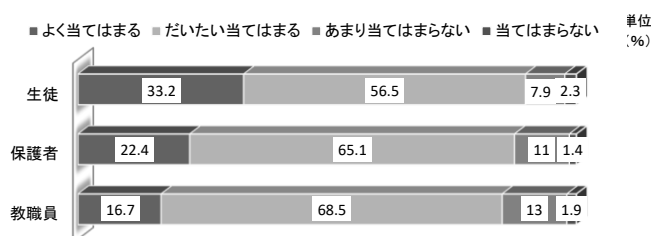
11 保護者等に対して、学校便り(一斉メールや学年便り、学校ホームページ)などによって、学校の情報は適切に伝えられている。(開かれた学校づくり)



【分析と対策】

生徒・保護者・教職員すべてにおいて95%を超える方々から「よく〜」「だいたい〜」の評価をいただくことができました。中でも「よく〜」という評価は生徒・保護者・教職員すべてにおいて昨年より増加しています。eメッセージを利用した学年便りの発行が今年度も活発に行われており、生徒・保護者にしっかりと情報が伝えられたことを実感として得られる結果となりました。今後も学校HPの充実と合わせて、より適切な情報発信を行うべく、さらなる研修や実践を積んでいきたいと考えます。

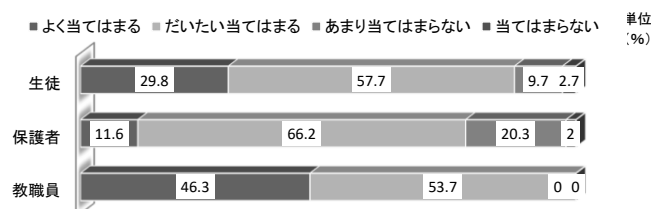
12 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている。(施設整備)



【分析と対策】

「よく〜」「だいたい〜」の割合は、昨年度比で、生徒は4.3ポイント増の89.7%、保護者は1.3ポイント増の87.5%となりました。直近3か年平均(全体)は86%となっています。今年度は、高架水槽改修工事、普通教室西棟外壁等修繕工事、ボイラー給気扇更新工事等を行いました。今後も、施設・設備の経年劣化に対応した修繕等を行いながら、エレベーターやエアコンの設置工事が実施できるよう努め、生徒の皆さんが安全で安心できる学校生活が送れるよう環境整備に取り組んでいきます。

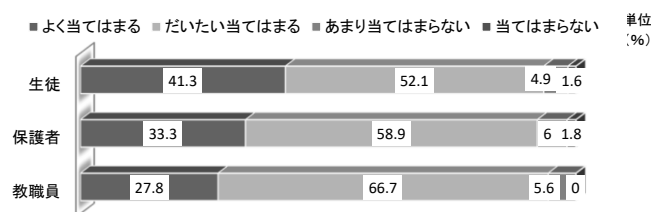
13 学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる。(いじめ問題)



【分析と対策】

「よく〜」「だいたい〜」について、生徒は昨年度から1.4ポイント増加しています(保護者はほぼ同じ)。昨年度からアンケート調査の実施について、eメッセージにより保護者に周知していることや家庭に持ち帰っての記入にしたことが要因と考えられます。今後も、アンケート調査や生徒・保護者からの訴え、教職員による発見や教育相談等、家庭や地域、関係機関と連携し、いじめに気付くネットワークを維持していくことで、学校だけでは見逃されがちないじめの早期発見を目指します。また、いわゆる「ネットいじめ」につながらないよう、情報モラル教育などを通して未然防止の取り組みをしていきます。

14 自分にとって、学校生活は充実している。(総合満足度)



【分析と対策】

生徒・保護者・教職員と「よく〜」「だいたい〜」との回答が例年同様90%を超えており、高い評価を得ています。上記の部活動や生徒会活動においても活発に行われていると高評価を得ていることから、多くの生徒が積極的にまた周りとの協力をしながら学校生活を送っていると考えられます。各行事(樹咲祭、球技大会等)も含め、このような環境を維持し、多くの生徒たちが自ら成長していけるよう環境づくりを支援していききたいと考えます。